

今月の題字
伊藤ノブ子 さん

(みどり市大間々町)
東京から大間々に越してきて18年。
憧れの音楽家ファミリー伊藤征夫さんの
奥様。先月60回目の結婚記念日を迎
えたノブ子さんの笑顔が大好きです。

虹の架橋

富弘美術館で特別展

『足元の春』六月一日まで開催中
星野富弘さんが天に召されてか
ら四月二十八日で一年が過ぎまし
た。でも、私たちは富弘さんの作
品を通していつも富弘さんからの
メッセージを受け取っています。
昨年出版された『ひと枝の花に似
て』の本の最後に奥様の昌子さん
は「なにより富弘さんは、自分に
命が与えられていることを本当に
感謝していました。そのことを他
の人にも伝える大きな役割を担っ
ている、そんなふうを感じていた
と思います」と記しています。



富弘美術館を囲む会会員募集中
富弘美術館を囲む会では、只今
会員を募集中です。年会費千円で
素敵な会員証が届き、令和八年三
月まで何度でも無料で入館でき、
美術館から情報誌も届きます。
今年の会員証はヒメジオンの絵に
添えられた詩「なんとかなるさ」
入会継続手続き
は富弘美術館。
足利屋でも受付
けております。



いい話
(文責・菊)
《357》

OKバジの呼び水支援

『OKバジの賢慮の生き方』
(川田英樹著・千倉書房)とい
う本が出版されました。OKバ
ジは、三十二年前からネパール
のドリマラという寒村に住み、
村人と寝食を共にして支援活動
を続けている垣見一雅さんのこ
とで、村人の願いをOK、OK
と叶えてきたことからOKバジ
と呼ばれるようになりました。
『OKバジの賢慮の生き方』の
本の中でOKバジの支援活動の
ことが詳しく記されています。
OKバジの支援は『呼び水支

援』とも呼ばれています。村人た
ちの欲しいものを全て提供するの
ではなく、本当に必要なものは何
かをいっしょに相談し、資材だけ
をOKバジが提供し、それ以外は
村人たちの無償労働で賄われま
す。村人たちにとっては自分たち
がつくったという達成感や愛着や
自立心が生まれます。そして、日
本からOKバジの活動を支えてい
る支援者には、OKバジから写真
や手紙で支援金がどのように使わ
れ、村人たちの役に立ったかが報
告され、支援者も大喜びします。
一昨年の六月に開催した「虹の
架橋三百号記念イベント」の際、
多くの方々からご協力ををいた

いた協賛金や寄附金五十
万円をOKバジに託しま
した。その一年後にOK
バジから「飲料水タンク
が完成しました」という
メールと写真が送られて
きました。「皆様にご支
援いただいた飲料水プロ
ジェクトの完成式に行っ
てきました。場所は、パ
ル県ジルバース郡プトウ
クデイ村です。タンセン
市から車で二時間、そし
て凸凹の泥道を二時間か
かる十六世帯の小さな村
です。皆様のお蔭でこの
村では飲料水の心配がな
くなり村人たちは大喜び
です。いつかは是非お越

ください。
Okba ji
飲料水タン
クの写真には
「飲料水プロ
ジェクト『命
と水』虹の架
橋三百号イベ
ント実行委員
会」という日
本語と英語の
看板が写って
いました。
毎年六月七月、OKバジ
は日本に帰国して支援者へ
の活動報告会を開催して
おり、今年も帰国最初の報
告会が桐生市で開かれます。
六月八日(日)午後二時か
ら、桐生市市民文化会館四
階国際会議場で「OKバジ
講演会」をお聴き下さい。



花桃に都市の賑わい過疎の村
わたらせ渓谷鐵道沿線
には、大間々、上神梅、
水沼、花輪、神戸、沢
入、通洞、足尾、間藤な
ど歴史や文化を感じさせてくれる
駅名がたくさんあり、地元の人た
ちは村を訪れる観光客を温かく迎
えてくれていきます。すっかり名所
になった『小夜戸(さやど) 大畑花
桃街道』や神戸駅周辺は、地元の人
たちが長い年月をかけて花桃の
植樹や手入れを続けた努力の賜物
で、花の時期は都会並みの混雑と
車の大渋滞になってしまいます。
5月は新緑の季節、「わ鐵」に
乗って沿線の風景とそこに住む人
たちの心に触れてみてください。

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の絵手紙《357》
大野勝彦さん『笑顔の季節』



熊本県在住の義手
の詩画家・大野勝彦
さんから絵手紙が届
きました。ハガキの
表面には三月に東京で大野さんと再会した時の
ことが書かれており「いよいよ出番です。お互
い頑張りましょう」と結ばれていました。
四十五歳の時に両腕を切断した大野さんは義手
で感動的な詩画を描き、風の丘阿蘇大野勝彦美
術館には連日、多くのお客様が訪れています。
熊本地震から九年、幾多の逆境を笑顔と感謝
で克服する大野さんを尊敬しています。

靖ちゃん日記

令和七年四月十八日(金)
築百年の建物をリノベーション
した複合施設「ハジマル」で毎週
金曜日に営業している地ビールを
三週連続で飲みに行った。地域お
こしを目指す若い人たちが集ま
り、楽しい雰囲気だった。
こういう店がでるのをずっと
待っていた。三十年前、地味おこしの活動
に参加した頃を思い出した。店の客の中で
自分が最年長だった。年は関係なかった。
先週の日曜日にここで出会った人たちと
大間々駅のトイレ掃除の話で盛り上がり、
「一度、参加してみませんか」と誘った。
今朝六時の大間々駅掃除は、一四九回目。
先週一緒に飲んだ二十代から四十代の男女
が四人も来てくれて「新鮮な感動でした」と
言ってくれた。十二人で写真撮った。
先週、一番若いSさんに「何を待ってけば
いいですか」と聞かれ、「手ぶらでOK」と
答えた。「手ぶら、ノーブラ」
ノーマイクでOKをなんて言えな
すぐセクハラで訴えられる。



虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百五十八号は令和七年六月一日(日)発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供：ひさかさん